

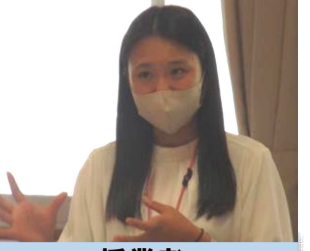


## 宿毛市立小筑紫小学校 道徳科 授業づくり講座

### 小筑紫小学校のコンセプト

対話を通して多面的・多角的な考えを深める

児童はこれまでの学習で、きまりを守ることで安全・快適に過ごせることに気付いていた。本教材の問題場面では、それぞれの判断の仕方を意見交流することで、きまりの意義についての理解を深め、自分の考えで判断できるようにしたい。



授業者  
森田 絵梨奈 教諭

## 第5学年 「ぼくは伴走者」 (廣済堂あかつき)

【主題名】法やきまりの意義 【内容項目】規則の尊重C-(12)

本時のねらい

ひろしのことを思う気持ちと伴走者としての義務の間で揺れる「ぼく」の心について考えることを通して、きまりの意義を理解し、それらを進んで守る道徳的判断力を高める。

教材研究会では 森 有希 教授にファシリテーターをしていただき、授業者の感じている困り感をもとに参加者が協議をする「道徳科チームミーティング」で事前検討を行いました。

### 本時の指導の要点は？

意義とは何？

この教材でいうと？

C【規則の尊重】  
(1) 内容項目の概要にあるキーワード  
きまりの**意義**について考える

きまりには  
意味がある

選手がけがをしないように  
安全を守るため  
生命・健康・未来を守るため

### 引き出したい児童の姿

- ・今まで努力してきたことを知っているから、最後まで自力で走り続けてほしい。
- ・走者の安全を守ることが伴走者の義務だから、手を貸してあげた方がいい。
- ・大会として成立しなくなるから、決められたルールは守るべき。
- ・ひろしの命や未来を守るために**ルール**がある。

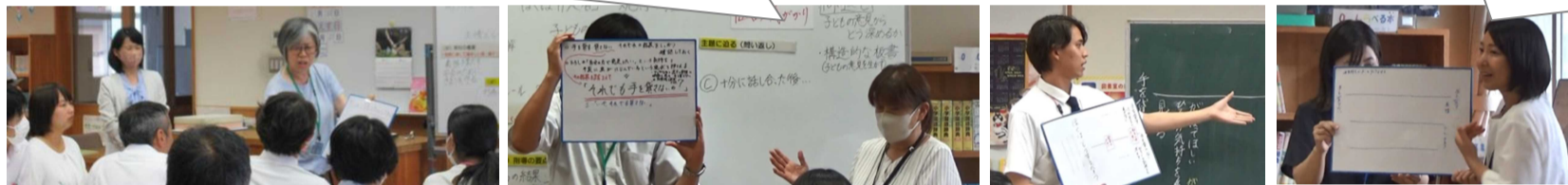
具体的な児童の姿をイメージ！

### 協議の視点①【子供の考えを深めるための問い返し】

- ・もしあなたが手を貸さなかったらどうなる？
- ・伴走者は何のためにいるのかな？(きまりの意義)
- ・一番大切なことは何だろう？
- ・手を貸すって、ひろしを大切にしていないのかな？(友情の視点)
- ・手を貸すって、どういうこと？(二つの価値観の葛藤の解決) 等

### 協議の視点②【子供の多様な考えを生かした板書】

- ・「手を貸す」と「手を貸さない」のどちらかだけでなく、悩んでいる意見も認める。
- ・「友情、信頼」と「規則の尊重」の二つの価値観での意見を整理する。
- ・話し合いの後半には、きまりを守る意義について児童の意見から出たものを赤字で板書する。等



模擬授業も取り入れながら協議をしました。沢山のご意見をいただき、ありがとうございます！

### 教材研究を通して 生まれてきた疑問点

二つの内容項目の  
葛藤を扱う  
教材の取り扱いは？

#### 森教授の助言より



高知大学教職大学院  
森 有希 教授

★主題、ねらい、授業の流れの整合性をもたせよう

★ねらいに迫るための中心発問を考えよう

★1時間1教材1主題に限らない指導の工夫を

一つの内容項目に焦点を当てる場合

【主題】法やきまりの意義(例)  
【内容項目】規則の尊重

【中心発問】伴走者のきまりを守らなければならないのは、なぜだろう。

【ねらい】「規則の尊重」の意義を理解し、規則を守ろうとする判断力を高める。

二つの内容項目を取り扱う場合

【主題】友情ときまりの間で(例)  
【内容項目】規則の尊重 友情、信頼

【中心発問】どうすればよいのでしょうか。どうしてそう思いますか。

【ねらい】それぞれの選択の理由から、それぞれの行為のよさを感じる心情を高める。

### ポイント 考えのズレから問題意識を持つ

子供は事前に教材を読み、自分が伴走者だったらどうするのかが気持ちメーターで考えていました。本時はその考えの共有からスタートしました。

気持ちメーターで考えを共有することで、考え方にズレがあることに気付かせ、ズレからこの時間に話し合いたい「問い」を子供に持たせていました。

自分の思いと違う友達もいるね。どうしてだろうね。

子供同士の対話が生まれるよう、授業者が橋渡しをする場面が随所にみられました。

(反対の立場の人に)〇〇さんの意見を聞いてみたいです。

自分は、後悔すると思うから助けたいです。

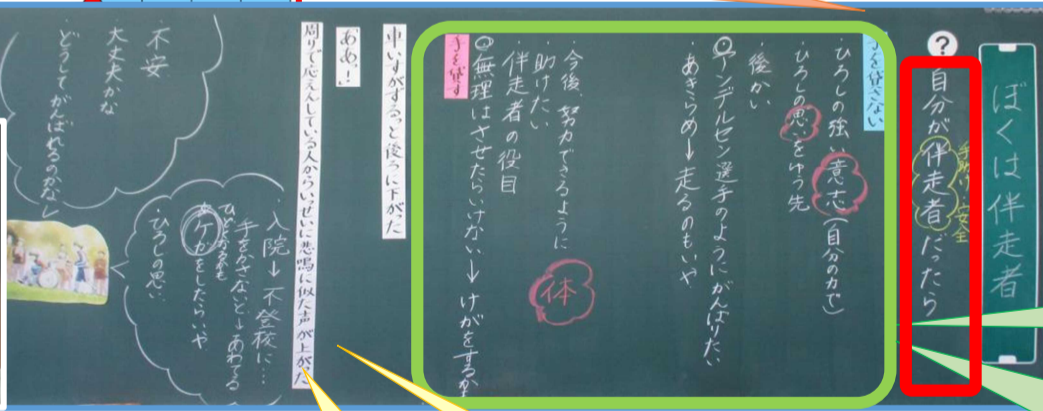
後悔ってどうして？

### ポイント 子供の発言から道徳的価値が表れている言葉を見付ける

授業者の困り感でもあった意見交流の際の板書の書き分けについては、「子供の多様な意見を生かした板書」にするため、子供の発言からキーワードを聞き取って、端的に書き記していました。

意見を列挙するのではなく、発言の中の大切な言葉をひろって立場の違いで書き分けており、意見の違いが一目で分かるようになっています。

子供は大人のように整った言葉では発言しません。その子なりの発言にどのような道徳的価値が含まれているのか気づき、板書に残すなど価値付けをするためには、授業者自身がねらいとする道徳的価値について理解を深め、子供の意見を想定しておく必要があります。



### ポイント 考え方の変容を自覚させる

意見交流の後にも気持ちメーターを活用することで自身の考えがどのように変わったのか比較することができています。

心情メーターで考えた後、授業者の「他の友達はどうだろうね。」という声かけて、**自然と対話**が生まれ、対話の中で自分や友達の考え方の変容の根拠を話し合うことができました。

例えば、こんな問い返しはどうでしょう？

#### 意見交流の場面で

「伴走者の役目」という意見から  
T: 伴走者の役目って何？ どうしてそれが大切なの？

「ひろしの思いが大切」という意見から  
T: ひろしの思いが大切なんだね。

他の選手だったら手を貸すの？

#### 役割演技後の話し合いで

「周囲の人の「危ないと思った」という意見から」  
T: 危ないなら見ている人が助けたらどう？

★出てきた意見をもとに子供の思考に沿った問い返しをすることが、考えを深めるきっかけになります。

### ポイント ねらいに迫るための問い返し

本時のねらい「きまりの意義」についてさらに考えを深めるためには、問い返しは欠かせません。本時であれば、どのような問い返しが考えられたでしょうか。

### ポイント 異なる視点に気付くための活動の工夫

話し合いの後には、「ひろし」と「ぼく」だけでなく応援している周囲の人の立場に立つために、全員参加の役割演技を取り入れました。演技をすることで、「危ない」と「ぼく」や周囲の人の立場になりきることができました。役割演技は、今まで気付いていなかった異なる視点で考える機会になります。どの視点の思いについて気付いたり深めたりしたいのか、目的を明確にして活動を仕組むことが大切です。



#### ☆参加者の声☆

- 普段の授業では児童の意見を出し合って終わることが多いので、教師が価値に迫るための問い返しをしたり意図的に板書をまとめたりすることで多面的・多角的に学べるようにしたいです。
- 児童同士で話し合いを進める方法や疑問をもとに授業を進める方法など、他の教材でも実践していきたいです。
- ねらいに向けて活動を工夫していくイメージが持てました。また、心情メーターや役割演技をもとにねらいに向かう方法を知りました。
- 授業前後の心の変容をICTを活用して視覚化することで、子供自身が授業を通してその変容を自覚できていた。役割演技を取り入れることは、本文の内容理解や自分事として捉えるために効果的だった。
- まずは校内研修で学んだことを伝え、できれば道徳科チームミーティングをして、特に若年の先生方の普段の授業の悩みの解決をしていきたい。